

発行日 2007年12月15日
発行： 盲人情報文化センター 録音製作係
〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号
道頓堀千鳥ビル
電話06-6211-0910(録音製作)

「音訳か」、「朗読か」

久保 洋子

「音訳か」「朗読か」といった質問が、最近おこなわれた近畿視情協の主催する「ボランティア・職員研修会」の席上で出されたようです。今回はこの問題を考えてみましょう。

「朗読か」「音訳か」を考える前に、録音図書作りの目的を、今一度確認したいと思います。

録音図書製作のために本を読むこと、これは活字情報を得ることのできない視覚障害者の目の代わりをして活字情報を音に変えることです。

活字で提供された情報(原本の内容)を正しく、100%音に変えることが録音図書製作の目的です。

本や雑誌を作る時に読みやすいものをと工夫するのと同じように録音図書も利用者にとって聞き易いものでなければなりません。長時間聞き続けても疲れずに、内容がきちんと伝わる読み、これが私たちの目標です。

辞書で「朗読」を引いてみました。

「声高く読み上げること。特に読みを工夫して趣あるように読むこと(広辞苑)」テレビやラジオ

や舞台上で俳優がする朗読は感性で読み上げる、原文を伝えると同時に俳優の芸を伝えているわけです。

私たちが目指すのは自分の読みを伝えることではなく、原文の内容を正しく伝えることです。

「音訳」という言葉は俳優がする朗読とは違うということで「点訳」に対する言葉として生まれました。淡々と読む、色をつけないなど、色々言われていますが、「音訳」といえども本を読むという意味では「朗読」に違いありません。台詞は台詞らしく聞こえなければなりませんし、詩は詩として、しかも、文字を見ない人にもわかるように、漢字の補足などもしながら読まなければなりません。

その意味では発声、滑舌、イントネーション、アクセントなど「朗読」の基礎をしっかりと身につけて、その上で利用者が長時間聴いても疲れにくい、内容が正しく伝わるように読む。これが「音訳」だと考えます。

『自宅録音チーム』勉強会

- 8日(火) 『マトリョーシカ』 10時～12時
- 16日(水) 『はなみずき』 1時半～3時半
- 24日(木) 『二十四の瞳』 10時～12時

『プライベートチーム定例勉強会』

- 9日(水) 1時半～3時
- 23日(水) 10時～12時 修了生ケア

『スタジオ曜日別チーム』勉強会

- 28日(月) 『月曜チーム』
- 29日(火) 『火曜チーム』
- 30日(水) 『水曜チーム』
- 31日(木) 『木曜チーム』
- 18日(金) 『金曜チーム』
- 26日(土) 『土曜チーム』

一月録音製作予定表

『専門図書音訳チーム』勉強会

- 16日(水) 『理数チーム』 10時半～12時
- 18日(金) 『東洋医学チーム』 10時半～5時
- 19日(土) 『古典チーム』 1時～3時
- 25日(金) 『英語チーム』 10時半～3時
- 26日(土) 『パソコンチーム』 1時半～4時

『橋本勝利のフォローアップ講座』

- 9日(水) 1時～3時
- 11日(金) 1時～3時

『2008年 音訳基礎講習会(全15回)』

※3月4日(火)スタート 午前10時～12時

校正について 第3回

原本凡例

大林 緑

「録音の順序」

原本凡例・・・原本凡例おわり

注意1：凡例がついている墨字図書は辞書、専門書などに多く、一般的な図書に付いているものは少ないがあれば入れる。

注意2：原本凡例と違う処理をする場合は、その旨を原本凡例の中で断る。

(校正のポイント)

原本凡例は「録音の順序」では

「前わく」「原本凡例」「デージー図書凡例」

「目次」・・・の順に入れることになっています。

しかし原本によっては、タイトルだけでは内容の予測が付きにくく、目次の前に原本凡例を聞いても、その後に始まる本文の内容を聞く助けにならないことがあります。

「日本の歴史」「図書館ハンドブック」などタイト

ルでおおよその内容が予測できる場合は良しとしても、本によっては(たとえば古典など)予測が付きにくいものもあります。

原本によって、利用の助けになる入れ方を考えましょう。

◎「録音の順序」通りに入れる。

◎目次のあとに入れる。

◎原本に記載されている順に入れる。

原本によっては巻末に記載されている場合もある。必要に応じて巻頭に(一部または全部)移動することも考慮する。

◎「原本凡例」と同等のもので、タイトルが「凡例」「例言」「題名について」などとして記載されている場合がある。タイトルの読みは原本通りとし入れる場所はそれぞれの原本に応じて入れる。

次回は「デージー図書凡例」です。

利用者からの手紙

拝啓 はじめましてお便りさせていただきます。

私は神奈川県で録音図書を利用させてもらっている者です。田主様の朗読なされた司馬遼太郎の『街道をゆく』(全43)を繰り返し聴かせていただいております。

『街道をゆく』は90分テープにすると220巻ほどになりますが、今その3巡目を聴いているところです。

何回聴いても楽しくあきることがありません。もちろん内容が素晴らしいものであることはいまでもないのですが、朗読された方のお力に負うところも大きいと私は確信しています。

活字を追っての読書と違い耳から聴く読書は読み手の声の質、字句の読みの正確さ、スピード感が必須条件ですが、田主様の朗読にはそのすべてがほぼ完璧にそなわっております。司馬作品は難しい語句も多いのに誤読がなく、その点だけでも驚嘆しています。数多くの朗読ボランティアのテープを聴いている者として誤読には本当にがっかりさせられます。朗読者に対する評価のみならず、その作品までもが評価を下げるようで誤読は作者に対する冒瀆ではないかとさえ思ってしまう。その点からも田主様の朗読は司馬遼太郎の文章とぴったり融合し、よりよいものとなっています。また、下調べから実際の録音まで膨大な時間をかけての作業であり、そのご努力にも頭が下がります。

『街道をゆく』を聴くことは、読書の醍醐味を存分に味わうことができ、私にとっては至福のひとつとなっております。感謝いたします。ぜひお礼を申し上げたいと思ってお便りした次第です。

このほど自伝と随筆を兼ねた『コラムの行進』を自費出版いたしましたので送らせていただきます。

今年も残すところわずかとなりました。寒さも次第に厳しくなっております。どうぞお身体大切になさってこれからも、私どもにすばらしい朗読をお聴かせくださるようお願い申し上げます。

敬具

2007年12月3日 大窪 謙一(代)

専門図書音訳チーム 東洋医学チーム

15年程前に先輩の「日本ライトハウス盲人情報文化センターに東洋医学のチームがないのは変じゃないの」の一言からはじまった東洋医学チーム。

現在、メンバーは12名で専門書の音声訳に取り組んでいます。20年程前に当時9階のホールで盲学校の先生と一部生徒、それをささえるボランティアの方達で開かれた「漢点字と機器展」を、たまたまお手伝いになりだされた縁で、現在の講師、片山先生と出会いました。

その後、片山先生に「これを音にして」と言われて、読み合わせをし（と言っても私が読み上げ、辞書を引き、あとは全て片山先生に聞いてカナをふっただけです・・・）音声訳ボランティアのT氏の活動日に、自分のその日の仕事が終わったあとで初見で音声化してもらいました。そういう事が2、3年続いた頃に東洋医学チームの話が持ち上がり、勇気を出して片山先生にお願いし、「第1回東洋医学講

座」をしていただくことになり、現在に至っています。

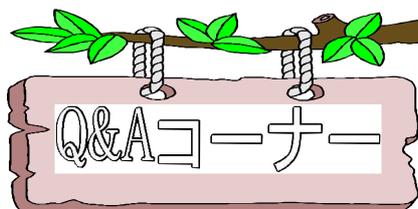
東洋医学関係の本に関しては、穴の名前にも同じ読みものがあり、例えば同じ経絡にさえ同名のものがある!! その他、同音異義語も多くあり、脈の状態などは一字ずつ、切って読まなければ判らない等、耳から入った情報が聞き手に理解しやすいよう工夫が必要です。

チームとしては毎月第3金曜日の午後に片山先生を迎えて、勉強会を開いております。皆様からの助言などありましたらよろしくお願い致します。

(M. K)



第3金曜、定例勉強会



ダイナミックマイクをパソコン録音に使う方法はありませんか？



パソコン録音の場合、ダイナミックマイクはボリュームがあまり上がりませんのでなかなか使えないようです。

しかし、自宅にカセットデッキがある方は、これを使うことでダイナミックマイクが使えるようになります。

方法は

- ①カセットデッキにマイクを差し込みます。
- ②カセットテープを入れてポーズ状態にします。録音はせずポーズ状態のまま使用します。
- ③カセットデッキの後ろ側にあるラインアウト

からパソコンのマイクジャックと繋がります。又は、カセットデッキのヘッドホンジャックとパソコンのマイクジャックとを繋がります。

④あとは、カセットデッキのボリュームつまみでボリューム調整をします。※ヘッドホンジャックから繋いでいるときは再生ボリュームでも調整します。

以上で、ダイナミックマイクもパソコン録音で使用できるようになります。また、音質は格段に良くなりますので試す価値は充分あります。

(清水)

各種講座のお知らせ

2008年 第1期 『音訳基礎講習会』の ご案内

盲人情報文化センターでは、当センターの蔵書となる「録音図書」や利用者からの依頼のある図書を製作する為の「音声訳基礎講習会」を実施します。

日程は **2008年3月4日(火)**
～6月24日(火)・全15回

要項など必要な方は電話、メールなどでお申し込み下さい。

詳しくは「盲人情報文化センター」のホームページ「耳より情報」にも掲載中

→ <http://www.iccb.jp/info/mimiyori.html>

→E-mail rec@iccb.jp

専門図書音訳講座 古典コース受付中

期間：2008年2月16日(土)～3月15日(土) 全5回

時間：午後1時半～3時半

※受講希望者は係までお申し出ください。

2008年 初心者音声訳講習生受付中

講習会実施時期

第1期生 2008年4月7日(月)
～6月2日(月)

第2期生 2008年7月7日(月)
～9月1日(月)

第3期生 2008年10月6日(月)
～12月15日(月)

第4期生 2009年1月19日(月)
～3月9日(月)

いずれも 13:00～15:00

係からのお知らせ

進行状況を入力して帰りましょう

音声訳者も編集者もその日の進行状況をパソコンに入力して帰るようにして下さい。新しい本の最初の回は「作業追加」で入力し、2回目移行は「作業内容修正」で入力します。

まだ、一回も入力していない方は、パスワードを発行しますので係までお申し出ください。

アクセント辞典を定価の 2割引でお分けします。

三省堂『新明解 日本語アクセント辞典』を2割引でお分けします。市販で購入しますと、定価は3,600円+税ですが、今回、これを2割引きの、3,024円でお分けします。希望者は係りまでお申し込みください。現物は手元に3冊ありますが、多い場合はお待ちいただくこととなります。

「ページホルダー」をお分けします

以前に紹介しました「ページホルダー」ですが、今回、少し多めに購入しました。希望者にはお分けします。

価格は450円です。希望者は係までお申し込み下さい。但し、数に限りがあります。お一人1個とさせていただきます。

編集後記 今年も早いものです。あっという間に1年が駆けぬけた感じです。国会関係の音声訳の締め切りが12月までとあって、多くの方が風邪と奮闘しながら、必至に仕上げてくださいありがとうございます。本当にご苦労様です。

今年は『ろくおん通信』を夏休みを除いて、なんとか毎月発行することができました。皆様のご協力感謝します。来年も、引き続き、この調子で継続発行ができるようがんばりたいと思います。

(K)